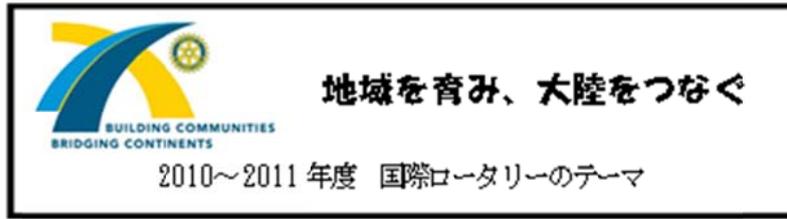




2010～11 年度
国際ロータリー会長

レイ・クリンギンズミス

Weekly Report Niigata



2010～11 年度
新潟ロータリー会長

樋熊 紀雄

新潟 RC 2月第3例会 (2010.2.15) No.2884

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 樋熊 紀雄会長挨拶

「発想法」について

日常、皆様は事業の課題改善に取り組む時どんな手法を用いていらっしゃいますか。課題解決の一つの技法として、KJ法を取り入れている方もあるかと思えます。

私とKJ法の出会いは、1987年、当時の文部省と厚生省共催「第14回医学教育者のためのワークショップ」に参加した時でした。富士山麓の研修所で1週間缶詰の環境の中で、最初に「医学教育の問題点」について、ブレインストーミングの後KJ法を用い、提示されたキーワードを分類・整理、関連付けて図式化し、問題点の抽出と解決法を見出すというものでした。

ご存知KJ法とは川喜多二郎氏のイニシャルのKとJを取ったもので、氏の著「発想法」は1967年に初版が出版されております。著者が何故この発想法が必要であったかについて、川喜多氏は、野外データの探検から観察や記録の分類を経て要約や分析まで進んでも、統合の方法が出来なければ、野外研究という名のトンネルを抜けるには、ほとんど役立たない。【野外の資料の整理】という課題に対して整理する方法は、「データの統合法」であるという考えからです。

川喜多氏は、分類と分析的手法の後に私の計画が頓挫したのは、分析技術ではなく、実にこの統合技術なのであったと回想しています。

そして更に、川喜多氏は、統合の方法は、いわば探偵小説の手法みたいなので、雑然と異質で、しかも一回しか起こらなかった証拠物件から、それを組み立て物語に統合して、犯人は彼だという所に導く糸を求めなければならない。その意味で、探偵小説と同じである。一口に日本語で「資料をまとめる」という、あいまいで大風呂敷

な言葉に執着していた間は、わたしの研究資料はさっぱり【まとまらない】し、はなはだ皮肉な結果に陥るだけであった。要約・分析と統合の両方法を関連的に全部行使したときに、はじめて「まとまる」事ができたと述べています。

これまでの科学的方法では、分類、要約、分析には力を持っているけれども、統合するという問題に対しては、はっきりした方法を何も用意していなかった。相互に比べることの出来ない異質の一組のデータから、いかにして意味のある統合を発見することができるか。また新しい発想をうちあげることができるか。データは単に足し算したり、割り算したりするだけではいけなく、それらが組み合わせられて、いままで気づかなかった新しい意味を見出すための発想をしなければならない。

日常、オズホーン氏のアイデアのブレインストーミング「独創力を伸ばせ」は、問題解決のために新しい発想、アイデアを作り出すために考えられた方法ですが、ブレインストーミングで吐き出された内容をなんらかの構造あるものに組み立てる。組み立てにあたっていわば統合を見出していくのに使う・・・それが『発想法』KJ法であります。

私は、スモールグループ討議を円滑に展開するために、小集団で思考をまとめる方法としてKJ法を用いています。その時には、ポストイットではなく文殊カード(3人寄れば文殊の知恵)を使っています。この文殊カードは、短時間にキーワードを沢山提案する方法として有効です。試してみてください。

(3) 米山奨学会より感謝状贈呈

- ・ 田中堅一郎君へ米山功労者第9回マルチプル感謝状
- ・ 柴田 史郎君へ米山功労者第2回マルチプル感謝状

(4) 石井 和弘会計より半期決算報告

拍手をもって承認

(5) 幹事報告（石川 治吉幹事）

例会修了後クラブ協議会を5階弥彦の間で開催致します。

23日に開催されます合同例会の受付時間が17:30に変更になりました。点鐘前にマグロの解体ショー、花岡詠二スイングジャズバンドの演奏をお楽しみいただきます。点鐘は予定通り18:30です。

本日現在の委員会表を配布致しましたのでご確認願います。

2月19日に開催されます新潟ローターアクトの40周年記念式典事業の一環として「るかちゃんチャリーン」という絵本をアクターが製作しました。ご希望の方は事務局へ連絡下さい。

(6) 会員スピーチ「よくわかる地デジ化」

(株)新潟テレビ21

代表取締役社長 玉 知夫 君

ホームページを更新致しました！

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>